



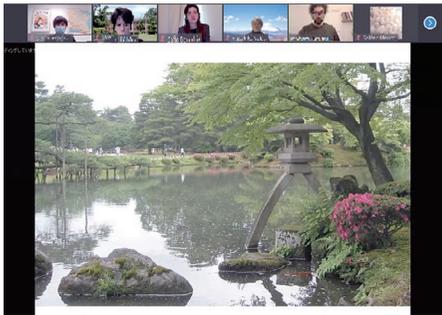
遠い JET がお近くに ～ウェブで JET 説明会！ウェブでもフランス人 CIR 活躍!!～

(一財)自治体国際化協会パリ事務所 所長補佐 甘利 祐一 (山梨県派遣)

JET 経験者による体験談

2020年12月9日、JETプログラムに関するパリ大学学生向けの説明会が、在仏日本国大使館の主催により開催されました。同説明会はこれまで、パリ大学をはじめイナルコ大学やセルジーポントワーズ大学などのキャンパスで日本語専攻学生を対象に行われてきましたが、今年は新型コロナウイルスの影響により、フランス JET 史上初となるオンラインでの開催となりました。説明会では、クリアパリ事務所職員によるプログラム説明に加え、2人の JET 経験者による体験談が語られ、25人ほどの学生が画面越しに熱心に耳を傾けていました。

国際交流員 (CIR) として4年間金沢市に勤務したガネムさんは、同市の魅力も織り交ぜた体験談を語りました。当時の業務は、文書の翻訳や市長会談等の通訳を主として、金沢市の姉妹都市であるナンシー市との交流に関するコーディネート、市民への姉妹都市に関する説明、フランスの PR、ローカルラジオへの出演等多岐にわたったと話し、その他、県内に居住する外国人のサポートや、中学校や高校で生徒の異文化体験の支援等も行ったと振り返りました。また、同市に勤める他国から



金沢市での業務や同市の魅力を伝えるガネムさんの体験談

の CIR とともに、料理教室や異文化理解イベントを企画開催し、金沢市民の国際体験に貢献したことも語りました。

また、下市町 (奈良県) にて外国語指導助手 (ALT) を務めたベンヤヤさんは、英語や文化の授業、英語クラ

ブの指導を行ったほか、ローカルテレビ番組や広報誌から取材を受けた経験を語り、プログラム全体を通して、文化的感性や適応能力が求められたことを伝えました。さらに、奈良県内の JET 参加者で構成されるネットワークで、季節ごとにスポーツやゲームイベントを開催して、多くの県民と交流を深めたと話しました。

参加した学生からは、JETプログラムに必要な日本語レベルや日本での業務内容等に関する多くの質問が寄せられ、関心の高さと真剣さがうかがえました。

ウェブで各地のフランス人 CIR 活躍

山梨県は、日仏姉妹都市交流を結ぶ自治体が最も多い県であり、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会では、10ものフランス競技団体の事前合宿を受け入れます。同県は、事前合宿に訪れるフランス人アスリートたちと交流できるよう、県民向けのフランス語講座の動画をホームページで公開しており、CIR のカミーユ・レさんが、交流の場で使われるフランス語を紹介しています。

また、豊かな湧水を誇る大野市 (福井県) は、水をテーマに国際交流に取り組み、フランスのオルレアン市、ベナンのパラクー市と共同で、水の大切さを学ぶボードゲーム「P2O と一緒に青い宝石を守ろう! (SAUVONS L' OR BLEU AVEC P2O)」を開発しました。日本、フランス、ベナンに割り当てられた3人のプレイヤーが世界の水を使い、それぞれの国の家庭、農業、工業、観光を発展させるゲームとなっています。制作の過程で毎月行われたスカイプ会議では、大野市の CIR であるマチルド・クロワさんが、同市の窓口としてフランス語で円滑にコミュニケーションや調整を行い、ゲームの完成に大きく貢献しました (詳細はパリ事務所ホームページをご覧ください)。